

## 『堺市鳥瞰図』

昭和 10 年 吉田初三郎（制作） 堺市役所（発行） 19.5 cm×99.5 cm

関西大学専任教員研究室資料

「大正の広重」と称された吉田初三郎制作の鳥瞰図である。表紙は「日本最初の世界的国交親善大舞踊之図」と款記があり、「初三郎」の署名と落款が押される。鳥瞰図の方に注目してしまうが、この表紙も見事である。地図裏面は、「堺市概略」、「堺市沿革」、「堺名勝史跡案内」、「堺小唄」、「堺附近の遊覧地」、「堺の行事」、「名物と土産品案内」、「遊郭と歓楽境」の解説と主要地の写真七葉、さらに、吉田初三郎の「繪に添えて」の名文がある（巻末に全文を掲載）。

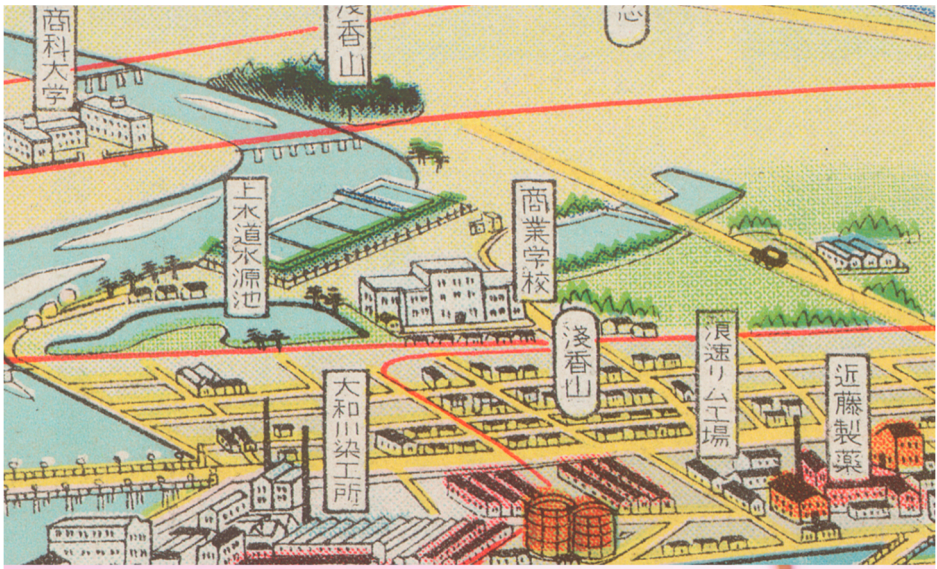
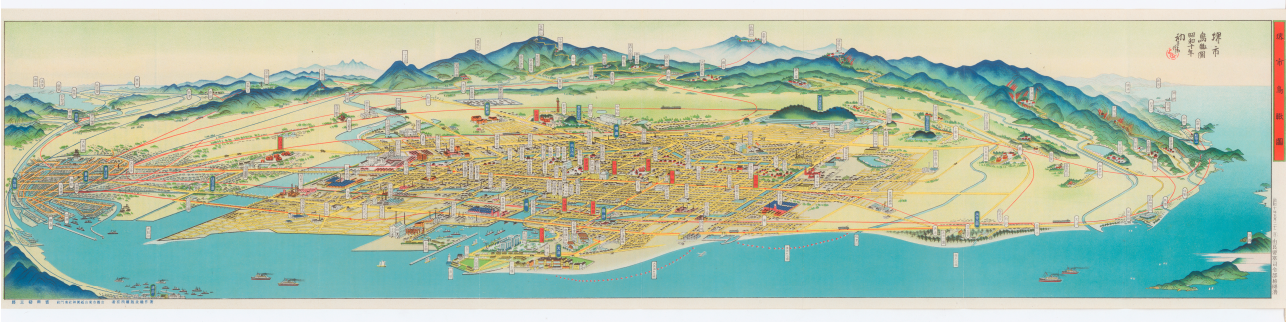
地図は、北は大阪駅、南は和歌山、勝浦、新宮まで記載され、東は名古屋、東京、さらには清津、新京の名前までである。西はあっさりと神戸止まりだ。

中心に描かれる堺市街は、公共施設だけではなく、当時の主要な工場、商店、料亭、名勝なども細かく記載されている。交通網は、現在の阪和線、南海高野線、南海本線、阪堺線に加えて、汐見橋から浜寺まで海岸沿いを走っていた「阪堺電鉄」線、宿院から大浜への南海大浜支線、南海高野線浅香山駅から機関車などの車両を製造していた梅鉢工場への引き込み線も描かれる。

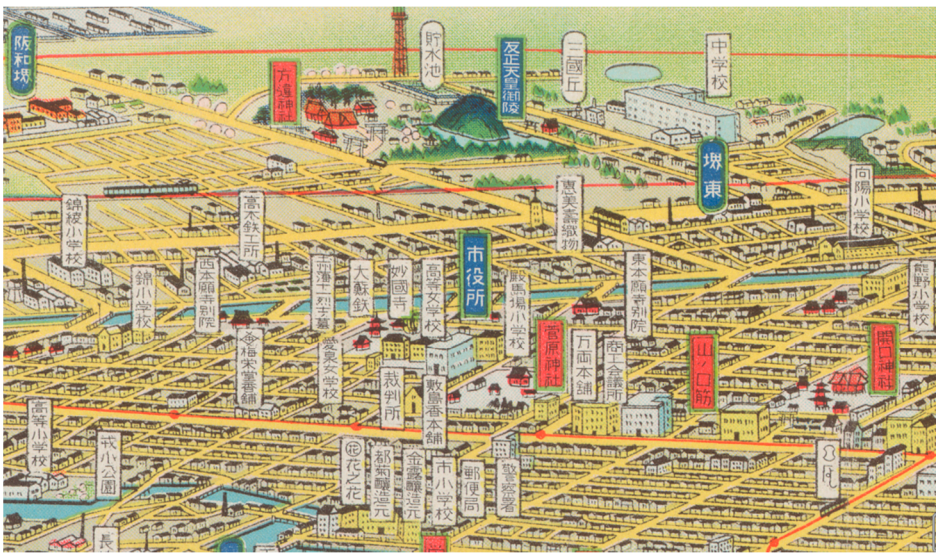
「菊泉」、「都菊」、「金露」、「沢亀」の醸造元が記載されている。当時はまだ堺市内で酒を造っていたことがわかる。「川又醤油」、「小田醤油」の名前も見える一方、「福助足袋」、「島野鉄工所」、「浪速リム工場」、「堺化学工業」、「大日本セルロイド」などの工場、「下里製菓」、「近藤製菓」の製菓会社、「敷島香本舗」、「梅栄堂香舗」の線香製造所の名前も記載され、堺市のにぎわいが聞こえてくる。大日本セルロイド跡地は、現在の七道イオンモール、大セルの赤煉瓦工場が一棟残されており、この地図では工場が赤く塗られている。現存の赤煉瓦工場は、どれであろうか。大浜に目をやれば、「堺卯」、「丸三楼」、「丸辰楼」、「一力楼」の料亭とともに、「潮湯」の名前を見ることができる。「大浜海水浴場」の南側には「飛行場」があり、水上飛行艇が描かれている。周辺部の名所、建水分神社、千早城址、滝谷不動、天野山金剛寺、牛滝山、犬鳴山、久米田寺、水間観音、そして、生駒、信貴、二上、葛城、金剛の山々が描かれ、地図の右上に高野山がそびえ立つ。

初三郎が「幸にはるか本図を以て単に今日の案内圖たるに役立つのみを目的とせず、遙なる後世の為に、いさゝか昭和の堺市を傳えてその印蹟を物語り得ば、筆者末代までの幸福である。」と述べたように、昭和初期の堺市の、声はずむ活気が地図を通して伝わってくる。

『堺市鳥瞰図』はもう一点、「星三」作になる地図がある。同じく堺市役所の発行であるが、星三は不詳、発行年も不明。どちらの地図も、『大阪春秋』第 181 号（令和 3 年冬号）の附録として復刻された。同号掲載の解説も参照されたい。



・「商業学校」が現在の関西大学堺キャンパス



・堺市中心部